

下水道 GX の取り組みについて

1. はじめに

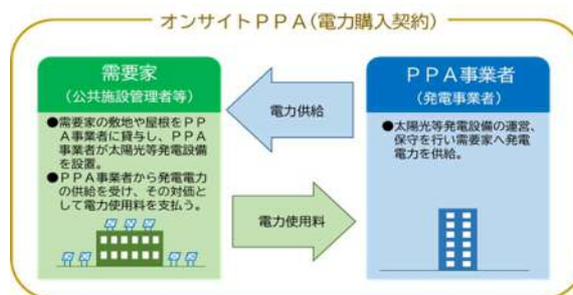
恵庭市は、2022年6月、脱炭素社会の実現に向けて、2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現を目指すことを宣言しました。

下水終末処理場は、当市施設の中でも多くの電力を消費する施設であり、率先して温室効果ガスの排出量を削減するため、処理場内の未利用地等を活用し発電を行う取り組みを進めています。この度、発電施設が完成し運転開始の見込みとなりましたので報告するものです。

2. 事業概要

オンサイト PPA

- 下水道施設内の空きスペース等を活用し、太陽光発電の施設を設置
- 発電施設等は、民間事業者が自らの費用で設置、運営
- 発生した電力は下水道施設等で購入



3. これまでの経過

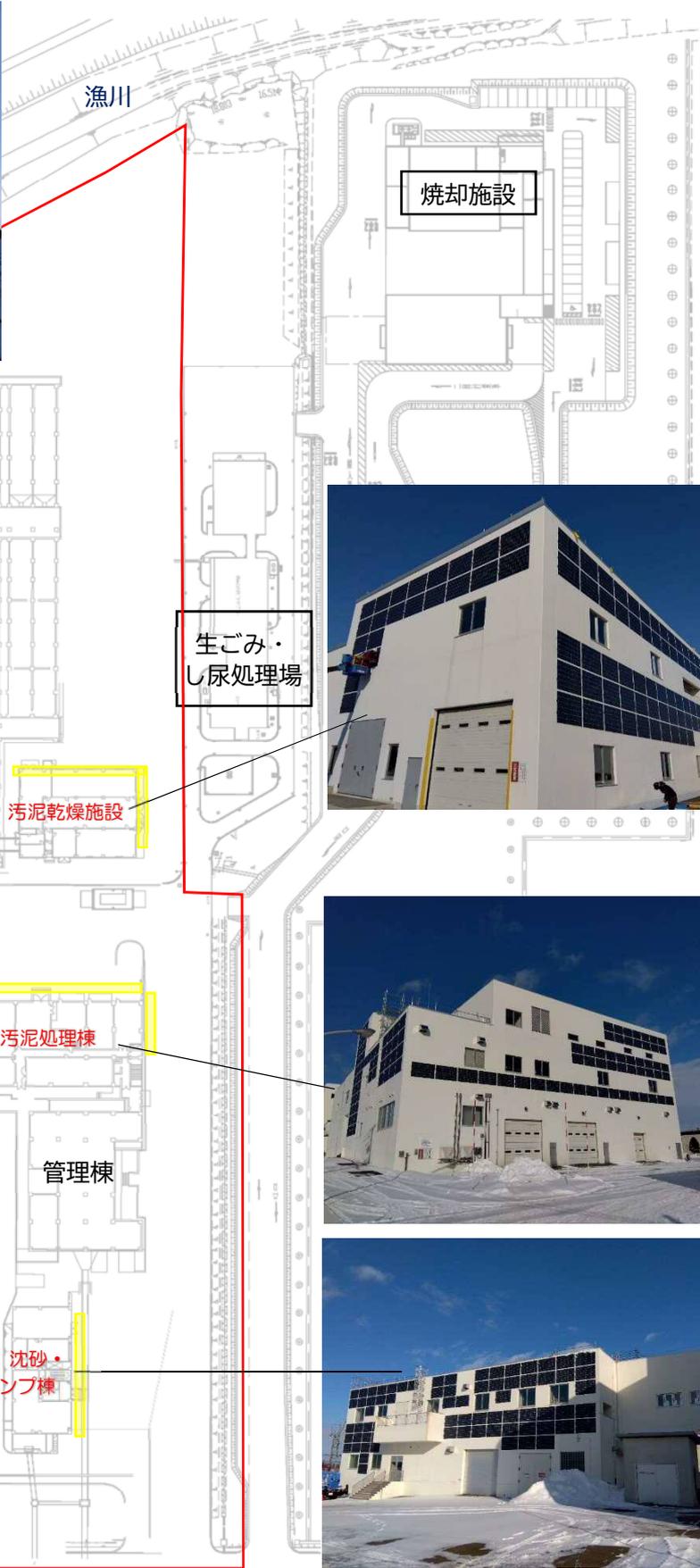
令和4年6月	恵庭市ゼロカーボンシティ宣言
令和4年7月～10月	先進地施策、導入検討
令和4年12月 ～令和5年3月	導入可能性調査（サウンディング型市場調査）
令和5年10月 ～令和6年3月	公募型プロポーザル、候補者選定
令和6年7月	基本合意（基本契約）

4. 実施概要

事業者名	(株)エネコープ	
受電期間	令和7年4月1日から20年間	
計画発電量	約27万kwh/年(見込)	※年間使用量の約9%
CO2削減量	約150t-CO2/年(見込)	
電力単価	一般的な商用電力単価の約6割の電力単価	

GX(グリーン転換) ～ 温室効果ガスの排出原因となっている化石燃料などから、太陽光発電などの再生可能なエネルギーに転換して、経済社会システム全体の転換を目指すこと

恵庭下水終末処理場 太陽パネル設置状況



市道西3線

野立てパネル 722 m²
 壁面パネル 667 m²